

第92回メーデー(メーデー開催形態を変更)

今こそ心をひとつに!働く仲間の笑顔のために 感謝と思いやりの絆をつなぎ 希望あふれる未来を切り拓こう!

メーデーは、今年で92回目を迎えました。

今年は、「働く仲間の祭典」に多くの組合員・家族が集まることの意義・重要性に鑑み、最大限安全に配慮した感染対策を行い、規模縮小のうで実施に向け各地区にて準備を進めてきましたが、新型コロナウイルス感染症拡大を受け、組合員と家族の安全と健康を守る観点から、昨年に続き集会を中止し、開催形態を変更した形で実施します。各地区での取り組みにご理解とご協力をお願いします。

メーデーの起源

メーデーは、1886年に米国の労働者が1日8時間労働を求めてゼネスト(全国的な規模で行われる労働争議)を起こしたことを起源としている。日本のメーデーは、1920年5月2日に第1回が開催された。戦争などで一時禁止に追い込まれたが、第二次世界大戦後メーデーは力強く復活し、働く者の団結と連帯を通じて、労働者の地位や労働条件の向上、人権・労働基本権の確立などに深く貢献してきた。

第92回メーデー中央大会
(4月29日)の様
を動画配信

視聴はこちらから→



宮崎会長あいさつ



県下各地の組合員、役員、退職者の皆さんお疲れ様です。今年のメーデーは、昨年に引き続き、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点と組合員の生命と健康を守ることを第一義に考え、集会方式での開催を断念しました。

連合長崎を代表して大きく3点について申し上げます。

その一つは、新型コロナウイルス感染拡大と課題についてです。

新型コロナウイルス感染症によって亡くなられた方、現在治療中の方々にお悔やみとお見舞いを申し上げます。

また、医療関係者の皆さん、そして感染リスクの不安を抱えながらも命と生活を懸命に支え続けているエッセンシャルワーカーはじめ全ての働く仲間に対し、心からの敬意と感謝の意を表します。

長期化する新型コロナウイルスの流行は、広範囲にわたって社会・経済活動の停滞を招き、人々の心身への影響や経済的な負担が大きくなっています。雇用への影響は、パート・有期・派遣や「曖昧な雇用」、女性・外国人など、より弱い立場の人や特定の業種・業態・働き方において一層強く出ています。コロナ禍は、これまで私たちが指摘してきた不安定雇用や格差、人口減少に伴う社会保障・財政・地域の持続性、デジタル化の遅れなど、様々な社会課題を顕在化させました。

政府や政党に対しては、短期的には、コロナ禍の雇用・生活対策にタイムリーかつスピーディな対応を求めるとともに、中長期的には、セーフティネットをいかに社会に張り巡らせるかなどの課題への対応が重要です。

あらためて、コロナ禍によって明らかになった社会制度を再構築し、誰一人取り残されることのない社会を創っていないかなければなりません。

また、差別や偏見、いじめ、誹謗中傷があとを絶ちません。行政等における啓発活動を求めつつ、私たち自らも誰もが感染する可能性があること、そして同じ働く仲間・家族であるとの立場で対応していきたいと思えます。変異ウイルスによる爆発的な拡大が懸念されます。大切な人の命と健康を守る観点から、強い緊張感をもって感染防止策の徹底を訴えます。

その第2は、2021春季生活闘争についてです。

コロナ禍は、今なお特定の産業・業種に厳しい影響を及ぼしており、今次闘争を取り巻く環境や交渉・回答状況は、例年以上に幅が見られています。

現時点の妥結状況は、こうした厳しい状況にありながらも、各組織の懸命な努力等により、2014年からの賃金引き上げの流れを継続するとともに、「底上げ」「底支え」「格差是正」と「分配構造の転換につながる賃金引上げ」の実現に向けた一定の成果として引き出しています。具体的には、大手を上回る結果を引き出した中堅・中小が多くあり、有期・短時間・契約等の労働者の賃上げ率は、一般組合員を上回っています。とは言え、地場・中小の闘いはまさにこれからになります。連合長崎は、回答結果等の情報のタイムリーな発信と街頭宣伝など全国一斉行動を実施し、中小組合の交渉環境の醸成に努めていきます。

その第3は、政治活動について申し上げます。

今の政治情勢は、コロナ禍における政策の遅れへの不満や「政治と金」に関わる問題など、多くの国民の信頼を失い政治不信は高まり、それが「あきらめ」につながっていることも否定できません。国難とも言える今、国民の政治への期待と果たすべき役割は高まっており、コロナ禍で顕在化した社会的課題を解決し、困っている国民に寄り添い、多くの助けを求めている人たちに手を差し伸べる政治の実現を強く訴えたいと思います。

こうした現状を打ち破るために私たちは、10月までには施行される衆議院議員選挙においてすでに推薦を決定している、1区「西岡秀子」氏、2区「松平浩一」氏、3区「山田勝彦」氏、4区「末次精一」氏の勝利に向けた活動を展開しています。私たちの生活、そして子や孫の未来のためにも絶対に負けられない戦いです。切実な市民の声を「政治」の場に反映するために、支援の輪を広げていきましょう。

結びになりますが、連合長崎は、コロナ後を展望した場合、単にコロナ以前の状態に回帰するのではなく、社会の構造変革を促す契機として捉え、これまでの活動を見つめ直し、運動を着実にバージョンアップさせ、「私たちが未来を変える」との決意のもと、「挑戦」し続けていきます。ともにごんばりましょう！

第92回メーデー 宮崎会長あいさつ動画配信

視聴はこちらから→



狭山事件の再審実現を

メーデーの日におこった狭山事件

1963年5月1日(水)、埼玉県狭山市で女子高校生が学校帰りに行方不明となり、身代金を要求する脅迫状が届けられました。

2日深夜、警察は40人もの警官を張り込ませながら、身代金を取りに現われた犯人を取り逃がし、4日に女子高校生は遺体で発見されました。

捜査にいきづまった警察は、付近の被差別部落に集中的な見込み捜査をおこない、5月23日に石川一雄さん(当時24才)を別件逮捕し、一か月にわたり警察の留置場で取り調べ、

脅迫や甘言、誘導によってウソの自白をさせ、犯人にでっちあげたのです。

石川さんは、現在も無実を叫び、再審(裁判のやり直し)を求めています。

現在、第3次再審請求から14年以上が経過、弁護団は241点の新証拠・鑑定を提出し、東京高裁が事実調べをおこない、再審を決定するよう求めており、非常に重要な局面を迎えています。

石川一雄さんは無実です